

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 24 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21320061

研究課題名（和文） 辺境と異境—非中心におけるロシア文化の比較研究

研究課題名（英文） Comparative study of marginal and overseas Russian culture

研究代表者

望月 恒子（MOCHIZUKI TSUNEO）

北海道大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：90261255

研究成果の概要（和文）：「辺境と異境」という視点からロシア文化の研究を行った。具体的には、第一に、極東、サハリンなどの辺境と中央（モスクワ、ヨーロッパ・ロシア）との文化的相互作用を研究した。第二に、中国・日本やヨーロッパにおける亡命ロシア社会の文化活動について、文学、美術、宗教など多岐にわたる分野で、その特徴を調査研究した。非中心といえる「辺境と異境」を視点とすることによって、ロシア文化を包括的に捉えることができた。

研究成果の概要（英文）：We have studied Russian culture by researching marginal and overseas regions. Specifically we have first investigated cultural interaction between marginal regions like Sakhalin and Moscow, the center of Russian culture. Secondly we have studied the unique characteristics of cultural activities of emigrant Russian communities in China, Japan and Europe in various fields like literature, art and religion. We have achieved a comprehensive understanding of Russian culture through our study of marginal and overseas regions.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合 計
2009 年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2010 年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2011 年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2012 年度	2,700,000	810,000	3,510,000
年度			
総 計	10,100,000	3,030,000	13,130,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：ヨーロッパ文学（英文学を除く）

キーワード：ロシア文化、辺境、異文化接触、亡命

1. 研究開始当初の背景

(1) 現代社会ではグローバル化の進展に伴い、他国や他民族との接触が著しく増加し、異文化との接触によるナショナルな文化の変貌、国や民族のアイデンティティと文化の関係の質的变化が生じている。文化研究に、この状況に適した視点、方法が求められている。

(2) ロシアは近代におけるロシア帝国の拡張と、20 世紀におけるソ連邦形成の歴史によっ

て、周辺の地域や諸民族と複雑で多層的な関係を結んできた。ロシア文化にはその多大な影響が見られる。ソ連崩壊後、旧ソ連圏に政治・社会的激変が生じたため、この問題は現代でも注目される。特に周辺の様々な国・地域や民族と隣接する辺境地域の文化状況の研究は今日的課題である。

(3) 1917 年のロシア革命とそれに続いた内戦、そして 1960 年代以降のソ連情勢は、多数の

亡命者を生み出し、国外でも独自のロシア文化が成立・発展した。20 世紀のロシア文化の大きな特徴となった亡命ロシア文化について、21 世紀の今日、新しい歴史的状況からその意義を見直すことが可能となった。この分野では、ソ連崩壊後に利用可能となった新資料も利用して、世界的に急速に研究が進んでいるので、日本独自の研究やロシア内外の研究者との共同研究を進める必要が痛感される。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、ロシア文化と異文化の接触、それがロシア文化にとって持つ意味について、文化的にもロシアの「中心」である首都モスクワやヨーロッパ・ロシアではなく、辺境地域および異境（国外）の事象を調査研究して考察する。従来、文化研究では中心的地域で見られる現象が重視されてきたが、本研究では、辺境と異境での異文化接触が直接的かつ多様であることに着目し、「非中心」というカテゴリーを導入してロシア文化研究を行う。

(2) ロシアは歴史的に、地続きの周辺に領土を拡大して、その過程でたえず新たな辺境を生み出してきた。中央から遠く離れた辺境では、他の国や民族との直接的な接触が行われた。特に文化面において、ロシアと「他者」の接触はどのような結果を生み出したかを、地域や時代ごとに検証する。

(3) 亡命ロシア文化について、その成立と存続の状況を地域別に調査する。さらに、それらの状況が個々の作品や作家たちの意識にどのように現れているかを明らかにする。それに基づいて、ソ連文化との比較において、亡命文化のロシア的特徴と独自性はいかなるものかを検証することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) ロシアの辺境における文化接触については、まず日露間で国境が数回移動した特異な歴史を持つサハリンと、環日本海圏に位置して日本とも深い関係を持つ極東に重点を置き、両地域のロシア文化について調査研究する。その複雑な歴史と、隣接する中国・日本などとの関係が同地域の文化にどのように影響したかを、文学・美術・建築・宗教など複数の分野で明らかにする。また旧ソ連の連邦構成共和国であったウクライナ・ベラルーシ両国も、ロシアに対する「辺境」として位置づけ、「中心」との文化的関係の特徴を、他地域との比較において探求する。

(2) 亡命ロシア文化は、ソ連文化と並んで、20 世紀ロシア文化の重大な構成要素であっ

た。その具体的な在り方を地域ごとに検証すると同時に、地域間でどのような結びつきがあったかも調査する。研究参加者が専門とする領域・作家等の個別研究も進め、それを基に亡命文化成立の状況、その存続と発展を可能にした条件について総合的に考察する。

(3) 現代における世界情勢の変化も影響して、亡命や越境の社会的・文化的意味づけが大きく変化してきており、ロシア亡命文化・亡命文学についても、20 世紀末からロシアの国内外で研究が大いに進展している。ロシアと欧米だけでなく、アジア（中国、日本など）での研究も盛んになって、東方の在外ロシア文化も注目されるようになったことが近年の顕著な特徴である。日本での長年の研究の蓄積を生かして、国際的な研究交流を積極的に行いつつ、本研究を進めることとする。

4. 研究成果

(1) 世界は今、多方面で確実にボーダーレス化が進む一方、様々な意味でのボーダーについて、たえず強く意識させられる状況にある。国境を含む広義のボーダーと文化の関係、それが国や民族、そして個人のアイデンティティに及ぼす影響について、本研究では、国境が移動する歴史をたどってきたロシアを事例として、辺境・異境に視点を置く独自の文化論構築の試みを行った。辺境と異境を括る「非中心」というカテゴリーの導入は、ロシアと「他者」(他国、他民族、異文化)との関係の複雑な諸相を、マージナルな視点から検証するのに有効であることを示した。

(2) ロシア辺境の中では、まず日本との結びつきが強いサハリンと極東地域について、歴史・文学・建築・美術・宗教などの多領域で、研究参加者の専門を生かして現地調査と文献研究を行った。ベラルーシ、ウクライナ、ロシアの諸地方についても同様の方法で研究を行い、辺境の文化におけるロシア的特徴とその地域の固有性について考察した。

(3) 亡命文化・亡命文学研究においては、ロシア革命直後の第一次亡命の「古い世代」、「若い世代」、そして 1970 年代以降の「第三の波」に属する人々について研究を行った。またベルリン、プラハ、パリを中心とするヨーロッパの亡命文化のみならず、在外ロシアの「東の枝」と呼ばれる極東の亡命者社会をも視野に入れて現地調査や文献研究を行った。20 世紀全体にわたり、従来より広範な地域と分野を扱い、亡命ロシア文化研究の対象を広げることができた。

(4) 亡命ロシア文化・文学研究は、20 世紀末から世界中で盛んに行われるようになって

いる。ロシア文化研究の長い伝統を持つ日本でも、研究者の増加や研究分野の拡大が明らかに見られる。世界ではロシア国内と中国での研究が、年を追うごとに盛んになっている。本研究が4年間に発行した4冊の研究報告集には、ロシアの様々な地域や中国の研究者の論文15本が含まれる。毎年度の研究会にも多くの外国人ゲストが参加して、日本の研究者と共に研究報告と活発な質疑応答を行った。日本の研究者の研究成果を広く紹介し、それと同時に同一テーマでの共同研究を行うことができた。また研究代表者・研究分担者は、研究期間中積極的にヨーロッパや中国での現地調査、研究交流を行った。これらを通じて、今後の亡命ロシア文化研究に大いに役立つ研究者ネットワークを作ることができた。特にヨーロッパで展開した亡命ロシア文学に関して緻密な研究成果を数多く発表したこと、そして「在外ロシアの東の枝」と呼ばれるアジアの亡命ロシア文化に関して共同研究の基礎を築いたことが、本研究の具体的成果として挙げられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計43件)

- ①望月恒子、短篇作家への道程—19世紀ロシア作家とチェーホフ、井桁貞義・井上健編「チェーホフの短篇はどのように読まれてきたか」(世界思想社)、査読無、113-138、2013
- ② ナカムラ タダシ、*О пейзаже в японской культуре нового времени*, Comparative Studies in Regional, 査読無、No.12、69-79、2013
- ③ Цунэко МОТИДЗУКИ、*«Россия» и «русское» в романе И.Бунина «Жизнь Арсеньева»*, 辺境と異境—非中心におけるロシア文化研究(科学研究費補助金基盤(B)研究成果報告書)、査読無、No.4、16-24、2012
- ④望月恒子、20世紀初期日本対中国俄僑文学的認知(楊雷訳)、俄羅斯文芸、査読無、2012年01期、31-33、2012
- ⑤ 望月恒子、ブーニンの自然描写について—後期作品を中心に—、辺境と異境—非中心におけるロシア文化の比較研究(科学研究費補助金基盤(B)研究成果報告書)、査読無、No.3、12-22、2012
- ⑥ 諫早勇一、異境のモスクワ芸術座—モスクワ芸術座ブラハ・グループと女優マリア・ゲルマノワ、辺境と異境—非中心におけるロシア文化研究(科学研究費補助金基盤(B)研究成果報告書)、査読無、No.4、1-11、2012
- ⑦ 中村唯史、1910-20年代のエイハンプラム：フォルマリズムとの接近と離反の過程、スラヴ研究、査読有、59号、29-59、2012

- ⑧ 中村唯史、ゴリキーの自伝的作品におけるヴォルガの印象の薄さについて、文化空間としてのヴォルガ：スラブ・ユーラシア研究報告集、査読無、4号、119-126、2012
- ⑨ 中村唯史、「アウステルリッツの空」をめぐって：『戦争と平和』における自然・死・歴史、緑の杖(日本トルストイ協会報)、査読無、18-33、2012
- ⑩ 中村唯史、ベルギー『昼の星』考(「ソ連文学」の典型としての)、「いまソ連文学を読み直すとは」(埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書4)、査読無、47-65、2012
- ⑪ 岩本和久、現代ロシアに生きるソヴィエト文学、「いまソ連文学を読み直すとは」(埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書4)、査読無、67-75、2012
- ⑫ Казухиса ИВАМОТО、*Солженицын в Японии*, 辺境と異境—非中心におけるロシア文化研究、査読無、No.4、51-61、2012、
- ⑬ Накамура Тадаси、*Восприятие Л.Толстого натуралистической школой Японии*, Россия и Япония: гуманитарные исследования, 査読無、123-133、2012
- ⑭ 諫早勇一、ゴリキーの《пошлость》をめぐって—ナボコフの論を手がかりに—、言語文化、査読有、第14巻第1、69-87、2011
- ⑮ 諫早勇一、ナボコフと大脱出—脚色から虚構へ、若島正・沼野充義編「書きなおすナボコフ、読みなおすナボコフ」(研究社)、査読無、261-269、2011
- ⑯ Юичи Исахая、*Набоков и молодые пражские поэты*, Набоковский сборник, 査読有、2011/1、43-48、2011
- ⑰ 中村唯史、「ソ連文学」史の書き換え—帰還、奪冠、揺らぎ、野中進ほか編「ロシア文化の方舟」(東洋書店)、査読無、112-120、2011
- ⑱ 岩本和久、AES+F 論、あるいはミュータントたちの饗宴、ユーラシア研究、査読無、44号、38-43、2011
- ⑲ 岩本和久、ソルジェニーツィンの、あるいはロシア文学の終わり、野中進ほか編「ロシア文化の方舟」(東洋書店)、査読無、83-90、2011
- ⑳ 岩本和久、極東の隣人たち、野中進ほか編「ロシア文化の方舟」(東洋書店)、査読無、348-355、2011
- ㉑ 越野剛、20世紀ロシア文学におけるサハリン島—チェーホフと流刑制度の記憶、「日露戦争とサハリン島」(北海道大学出版会)、査読無、129-155、2011
- ㉒ 井潤裕、占守島・1945年8月、境界研究、査読有、No.2、31-64、2011
- ㉓ 井潤裕、「占守島の戦い」再考：「8月15日史観」を問い直す、別冊「環」、査読無、19号、85-96、2011
- ㉔ 望月恒子、*Творчество Гайто Газданова в 1930-е годы*、辺境と異境—非

中心におけるロシア文化の比較研究（科学研究費補助金基盤（B）研究成果報告書）、査読無、No.2、32-39、2011

②⑤ 諫早勇一、*Гражданская война и исход с точки зрения писателя эмигранта Набокова*、辺境と異境—非中心におけるロシア文化の比較研究（科学研究費補助金基盤（B）研究成果報告書）、32-39、査読無、No.2、40-47、2011

②⑥ 望月恒子、*ガイト・ガスダーノフ『夜の道路』*について—1930年代の亡命ロシア文学とパリ、北海道大学文学研究科紀要、第132号、査読無、45-67、2010

②⑦ 望月恒子、ブーニン作品の東方的要素—中編小説『兄弟たち』を中心に—、辺境と異境—非中心におけるロシア文化の比較研究（科学研究費補助金基盤（B）研究成果報告書）、査読無、No.1、1-9、2010

②⑧ 諫早勇一、ガリポリー異境の成立—、辺境と異境—非中心におけるロシア文化の比較研究（科学研究費補助金基盤（B）研究成果報告書）、査読無、No.1、10-17、2010

②⑨ 諫早勇一、プラハのロシア詩人たち—「現代性」をめぐる論争、『RUSSIAN PRAGUE—両大戦間のプラハにおける文化の交錯の研究』、査読無、1-11、2010

③⑩ 中村唯史、ソ連における翻訳の問題に寄せて：ガムザトフの詩『鶴』の再考まで、辺境と異境—非中心におけるロシア文化の比較研究（科学研究費補助金基盤（B）研究成果報告書）、No.1、査読無、18-35、2010

③⑪ 岩本和久、ルー・ザロメと精神分析、辺境と異境—非中心におけるロシア文化の比較研究（科学研究費補助金基盤（B）研究成果報告書）、No.1、36-47、2010

③⑫ 岩本和久、オブセッションの連鎖 オレグ・リクーシン『乞食たちの日』について、現代思想、査読無、2010年4月臨時増刊号、2010、160-169

③⑬ 谷古宇尚、遠い地平線の絵画—ロシア極東とサハリンの画家たち、北村清彦編「北方を旅する—人文学でめぐる九日間」（北海道大学出版会）、31-58、2010

③⑭ 望月恒子、チェーホフと旅へ、北村清彦編「北方を旅する—人文学でめぐる九日間」（北海道大学出版会）、1-30、2010

③⑮ 井潤裕、周縁の周縁の中央 空間的ヒエラルヒーと建築の境界性(1)、辺境と異境—非中心におけるロシア文化の比較研究（科学研究費補助金基盤（B）研究成果報告書）、査読無、No.1、70-93、2010

③⑯ 諫早勇一、亡命ロシアの子どもたち—モラフスカー・トシェボヴァーのロシア・ギムナジウムをめぐる—言語文化（同志社大学言語文化学会）、査読有、第12巻第1号、277-291、2009

〔学会発表〕（計39件）

① 中村唯史、大戦間期の日本とソ連の文芸における「声」、日本比較文学会東北大会、2012年11月17日、山形テルサ

② 越野剛、1812年と戦う女性のイメージ（ロシア文化史の中の対ナポレオン戦争）、日本ロシア文学会、2012年10月6日、同志社大学

③ 越野剛、ポーランド文学における「ベラルーシ派」—ヤン・バルシュチェフスキを中心に—、日本西スラヴ学研究会、2012年3月15日、北海道大学

④ 越野剛、チェルノブイリ原発事故とベラルーシの文学—放射能汚染地の描写を中心に—、日本比較文学会北海道支部・東北支部共催研究会、2012年3月17日、北海学園大学

⑤ Кадзухиса Ивamoto, *Ленин и Солженицын: идентификация героя с автором*, Международная научная конференция "Жизнь и творчество Александра Солженицына: на пути к "Красному Колесу"", 20111208, Дом русского зарубежья, Moscow(Russia)

⑥ 岩本和久、ポスト・ソヴィエトのロシア文学、JSSEES シンポジウム「ソビエト崩壊の20年—生活の変化、思想の変容」、2011年10月23日、東京国際大学

⑦ 岩本和久、現代に生きるソヴィエト文学、日本ロシア文学会研究発表会ワークショップ「いま、ソ連文学を読み直すとは」、2011年10月9日、慶應義塾大学

⑧ 中村唯史、ソ連文学の一底流について、日本ロシア文学会研究発表会ワークショップ「いま、ソ連文学を読み直すとは」、2011年10月9日、慶應義塾大学

⑨ Накамура Тадаси, *Восприятие Л.Толстого «натуралистической школой» Японии*, Россия и Япония: гуманитарные исследования, 20110909, Дальневосточный федеральный университет, Vladivostok(Russia)

⑩ Itani Hiroshi, *Korsakov and Odomari: Transition of Border and Landscape*, Western Social Science Association: 53rd Annual Conference (Association for Borderland Studies), 20110416, Hilton Salt Lake Center (USA)

⑪ Itani Hiroshi, *Sakhalin-Kuriles: The Prospects of the Japan Russia Border Changes*, Eurasia Borderlands Review, 20110902, Center for Eastern Studies (Poland)

⑫ Itani Hiroshi, *Mobile Border and Townscape: A City in Sakhalin*, Korsakov, BRIT (Border Regions in Transition) XIth Conference "Mobile Borders", 20110908, Geneva University (Switzerland)

⑬ Koshino Go, *Images of China in Russian Literature*, International Conference "Comparative Aspects on Culture and Religion:

India, Russia, China”, 20110915, Center for the Study of Culture and Society (India)

⑭井潤裕、樺太の街並と名建築、「樺太 知られざる国境」展関連講座、2011 年 7 月 16 日、オホーツクミュージアムえさし

⑮ Ивамото Кадзухиса, «Остров Сахалин» А.П.Чехова и современная японская литература, Международная научно-практическая конференция «А.П. Чехов и Сахалин: взгляд из XXI столетия», 20100922, Sakhalin State University (Russia)

⑯ Koshino Go, *The Chernobyl Disaster in Contemporary Belarusian Culture*, 国際中東欧学会(ICCEES). 20100728. Stockholm City Conference Center(Sweden)

⑰望月恒子, Гайто Газданов, писатель «незамеченного поколения», 科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究発表会、2010 年 11 月 19 日、同志社大学

⑱諫早勇一、Гражданская война и исход с точки-зрения писателя-эмигранта Набокова, 科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究発表会、2010 年 11 月 19 日、同志社大学

⑲中村唯史、バフチン『可能性をより大胆に活用せよ』に見る「多文化主義」、科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究発表会、2010 年 1 月 24 日、北海道大学

⑳中村唯史、境界をめぐる思考：近代ロシアのコーカサス・イメージ、東北学院大学オープン・リサーチ・センター講演会、2010 年 9 月 25 日、東北学園大学

㉑ Iwamoto Kazuhisa, *Psychoanalysis and Soviet Artists in the Stalin Era*, EACES (East Asian Conference for Slavic Eurasian Studies)2010, . 2010 年 3 月 4 日. ソウル教育文化会館(韓国)

㉒岩本和久、現代ロシア文学における地方性について、科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究発表会、2010 年 1 月 24 日、北海道大学

㉓井潤裕、製紙工場の地政学—基盤としての辺境、科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究発表会、2010 年 1 月 24 日、北海道大学

㉔谷古宇尚、先住民と現代美術-《シベリアのシャーマン展》(シュトゥットガルト, リンデン博物館, 2008-09 年)をめぐる、科学研究費補助金基盤研究(B)研究発表会. 2010 年 1 月 24 日、北海道大学

㉕ Mochizuki Tsuneko, «Женскость и материнство в романе "Казус Кукоцкого" Людмилы Улицкой», Wielkie tematy kultury w literaturach słowiańskich No.9, (20091120), University of Wroclaw (Poland)

㉖ Koshino Go, Кликушество и истерия в «Братьях Карамазовых», Wielkie tematy kultury w literaturach słowiańskich No.9, (20091120), University of Wroclaw (Poland)

〔図書〕(計 4 件)

①谷古宇尚、「知られざるクリル・カムチャツカ—ロシアから見た境界のイメージ」(北海道大学総合博物館展覧会カタログ)、2013、32 頁

②中村唯史、「ことばの杜へ」、山形新聞社、2012、268 頁

③貝澤哉・野中進・中村唯史編、「再考ロシア・フォルマリズム—言語・メディア・知覚」、せりか書房、2012、225 頁

④岩本和久「フロイトとドスチエフスキー—精神分析とロシア文化」東洋書店、2010、232 頁

〔その他〕

ホームページ等

<http://mochizukitsuneko.com>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

望月 恒子 (MOCHIZUKI TSUNeko)

北海道大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：90261255

(2) 研究分担者

諫早 勇一 (ISAHAYA YUICHI)

同志社大学・言語文化教育センター・

教授

研究者番号：80011378

中村 唯史 (NAKAMURA TADASHI)

山形大学・人文学部・教授

研究者番号：20250962

岩本 和久 (IWAMOTO KAZUHISA)

稚内北星学園大学・情報メディア学部・教授

研究者番号：40289715

谷古宇 尚 (YAKOU HISASHI)

北海道大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：60322872

越野 剛 (KOSHINO GO)

北海道大学・スラブ研究センター・助教

研究者番号：90513242

井潤 裕 (ITANI HIROSHI)

北海道大学・スラブ研究センター・

共同研究員

研究者番号：10419210

(3) 連携研究者

なし